

市政のここが聞きたい

12月定例会市議会は、12月7日、10日及び11日の3日間にわたり16人の議員が一般質問を行いました。その質問の中から、1人2問まで要約して掲載しました。
なお、詳しい内容をお知りになりたい方は、市立図書館などで12月定例会市議会会議録（3月上旬発行予定）をご覧になるか、インターネットで検索してください。

大熊 公平

契約について

問 ●契約、入札の改善について、百条委員会が改善点を何点が挙げているが、これらを一体のものとして捉え、同時に進めるべきではないか。

また、公約に総社市刷新を掲げているが、再発防止にどのように取り組んでいくのか。

答 ●入札制度改革の基本的方針は、公平性、公正性、透明性の高い制度を実現していきたいと考えている。百条委員会の提言

と市内建設業者の健全育成の観点を踏まえた上で、現在検討中である。

随意契約の運用についても、提言を踏まえ、今以上に適正かつ公正に運用を行う必要があると考えている。提言等を含め、一体のものとして捉え、同時に検討していきたい。（市長）

市長の政治姿勢について

問 ●公約の10の約束について、ごみ袋の値下げを検討するということだが、ごみ減量化基本計画が崩れることについて、また環境問題、温暖化等に逆

行することについて、どう考えているか。

秋山 律郎

市長の政治姿勢について

問 ●大型プロジェクト中心から地域や身近な暮らしを大切にす施策運営への転換、地域に密着した足元の課題、問題などに断固たる行動力でトライすると言われているが、地

このほか、選挙違反疑惑事件について質問しています。

答 ●農業の新補助制度については、国の動向を踏まえ、農家の皆様からの意見、要望を聞き、地域の現状に即した助成制度を考えていきたい。（市長）

定員適正化計画と職員採用について

問 ●定員適正化計画により、職員採用等がほとんど行われていないが、一般行政職の職員1人当たりの人口は、県下15市の中で一番多い。市民サービスの低下が懸念されることから、定員適正化計画を見直すべきと考えるがどうか。

域間の格差は正について、具体的にはどのような事業に取り組んでいくのか。

▲市民の安心・安全を守るために、幹線道路の防犯灯に取り組む必要があると思うがどうか。

答 ●さまざまな格差があるというのも一つの否めない事実である。財政の問題が大きく伴うものであるが、いろんなアイデア等を持って、格差是正を図っていききたい。

▲防犯灯については、市民の安心・安全を守る見地からも検討を行い、前向きにやっていきたい。（市長）

市政のここが聞きたい

12月定例会市議会は、12月7日、10日及び11日の3日間にわたり16人の議員が一般質問を行いました。その質問の中から、1人2問まで要約して掲載しました。
なお、詳しい内容をお知りになりたい方は、市立図書館などで12月定例会市議会会議録（3月上旬発行予定）をご覧になるか、インターネットで検索してください。

村木 理英

移動困難者、制約者の移送システムについて

問 ●自宅と目的地までの間を移送する乗合タクシー（デマンドタクシー）の導入の考えはあるか。

▲高齢者や障がい者等の移送手段として、福祉有償移送を支援する考えはあるか。

◆その財源の確保のため

にも、現在の補助金制度を見直すべきであると考えているがどうか。



高規格救急車

答 ●乗合タクシーについては、既存路線バスとの兼ね合いから、市全域への導入は難しいが、路線バスが廃止になった場合の代替策として検討していきたい。

▲福祉有償移送については、運送責任及び事業量に比して経営的に非常に厳しい状況であることから、他市の状況を勘案し、支援等を検討していきたい。

救急医療体制の充実について

問 ●搬送時間の短縮のため、スマートICを導入する考えはあるか。実際に実験をした上で、その効果を提示していただきたい。

▲高規格救急車の増車とともに、その中で医療行為を行う救急救命士の増員も必要と考えるがどうか。

●スマートICについては、搬送時間の短縮効果を実測し、国の動向を見ながら、検討していきたい。

▲救急救命士については、高度で充実した救急体制を推進するため、計画的に増員をしていきたい。高規格救急車については、従来の救急車の更新時及び新規増車時に高規格救急車を導入し、救急体制の充実を図っていききたい。（市長）

松浦 政利

財政の現状認識と財政改革について

問 ●全国の782都市の決算がおさめられた全国都市財政年報によると、ほとんどの項目が中間より下である。本市と人口、産業構造が類似している都市と比較しても、経常収支比率以外はすべて中間より下である。県内の15都市で見ても、10番以内にあるのは僅かしかない。

このように、本市の財政は決して楽観できるものではなく、近年では一番最悪の状態にある。公約の中で財政構造改革をすると訴えてきたが、どのような心構えで、どのように乗り切ろうとしているのか。

答 ●本市の財政状況は、非常に厳しいと認識している。特に、平成24年まではかなり厳しい財政運営が強いられ、いくつもの課題を抱えている。これまでの大型投資の公

萱原 潤

市長の市政運営に対する所信・基本的なスタンスについて

●市政推進に当たり、文化や教育に対して

借費の元金部分が加算されていくこと、人口構造における社会保障の部分がが増えていくことから、非常に厳しい状況になっている。

この数字は本当にゆゆしき事態と認識し、財政運営に取り組んでいかなければならない。この数値でいくと、新たな起債は上部団体の許可制度になるので、気をつけながら進めていかなければならない。